

福迫会長と語る会 ～介護職員編～



平成30年10月24日開催

「笑顔、思いやり、人を大切に」

福迫会長と介護職員で、介護職のやりがい、魅力や課題などを語り合う会を開催しました。普段の仕事の様子や連携の様子、プライベートとの両立や課題まで多岐にわたって語り合った一部をまとめましたので、ご一読頂ければ幸いです。



社会福祉法人

札幌市社会福祉協議会

福迫会長の思い



厚生労働省の発表している平均寿命ですが、男性が約81歳、女性が約87歳となっております。
(平成30年7月20日付 厚生労働省発表資料より)

一方「日常生活に制限のない期間の平均」という健康寿命は男性が73歳、女性が75歳です。平均寿命から健康年齢を引き算すると、男性は約8年間、女性は約12年間何らかの手助け、つまり介護が必要になるということにならないでしょうか。健康寿命の数字は、2016年の厚生労働省の統計ですが、だんだんその差が大きくなってきているようです。

そういう意味では「健康である」ということが「社会貢献である」ということが言えるのかもしれませんが、本日は介護職員皆さんとの語る会なので、忌憚のない意見交換が出来ればと思います。

主な業務の1日の流れについて

ホームヘルパー(サービス提供責任者)



竹花:私が所属するヘルパーセンターでは4つのチームがあり、そのうち2チームを担当しています。ご利用者さまは計104名で、自宅から直行直帰しているヘルパーとサービス提供責任者を含めて24人となっています。担当を決めて、決められた曜日と時間にヘルパーは訪問しています。

一日の流れとしては、常に担当しているヘルパーの動きを常に確認しています。ご利用者様の都合やヘルパーの休暇時に代行ヘルパーの調整を電話やメールでやりとりをし、毎日確認しています。

サービス提供責任者としても1日数件のご利用者様のお宅に訪問して活動に行きます。

その他、ご利用者様からの相談を受けて訪問したり、状況やサービス提供状況を確認して、課題を分析して、計画作成や更新を行います。月初めには前月分の状況報告書をまとめ担当のケアマネジャーにお渡しします。

その他にも沢山の業務がありますが、札幌市社協には「サービス提供責任者業務マニュアル」があり、毎日確認しながら業務を行っています。



横田:サービス提供責任者としては、苦情対応も大きな仕事になります。

長生園(支援員)



高橋:長生園には50名の入園者さんがいて、私たち支援員は24時間交代で勤務しています。起きた後から夜寝るまでの間の安否確認や体調の確認、毎朝決まった時間のラジオ体操や、書道クラブ、茶道クラブ、詩吟クラブなどを毎日しています。

支援員としては、外出レクリエーションの計画や、できる限りお部屋から出て活動してもらえるような工夫をしています。また、悩みの相談にのったり、不安に思っていることを聞いたり、トラブルにならないように傾聴しています。

デイサービスセンター(介護職員)



坂崎: 豊平デイサービスセンターは老人福祉センターと併設していて、利用者は一日平均20人前後となっています。送迎、食事、排せつ、アクティビティの支援、その他記録や行事等の準備をしています。



市原: 屯田西デイサービスセンターでも、一日平均が20名となっています。一日の流れとしては、朝の送迎からバイタル測定、発声練習、入浴。午後からは嚥下体操、機能訓練、書道や運動レクなどのアクティビティを行っております。

業務上の工夫について

ホームヘルパー



伊藤: その方の住まいや状況等に合わせて支援方法を個別に変えて対応する必要があります。複数名のヘルパーで関わる際には関わり方にばらつきが出ないように注意しています。具体的には、日々の各ヘルパーとのやり取りやフォローが大事になるので、センターに顔を出してくれるヘルパーに、「最近どう?」と声をかけて状況を聞き、引継ぎや情報共有を密にしています。

札幌市社会福祉協議会は研修が充実していて、幅広く業務の質を維持するためには役に立っています。ここまで研修が充実している会社は無いので、他法人等から研修が充実していると聞いてと採用申込みをしてくる方もいると聞いています。チームやグループ単位での研修や会議、フォローもあるので、安心して働くことが出来ています。

色々な機会、経験の浅いヘルパーは、先輩ヘルパーに相談する機会が多いので先輩ヘルパーに相談して、「自分とは違うこんな方法、考え方があるのだ」「悩んでいるのは自分だけではない」と言うことが分かり、前向きに考えて、気持ちを切り替えながら成長してくれていると思っています。



今野: 研修が充実しているので、同じような支援方法や考え方などを共有することが出来ており、人によって異なることが少ない共通の業務が出来ているのではないかと思います。

デイサービス



坂崎: 札幌市社会福祉協議会では、各区において部門を超えた連携会議を行っており、その中で事例として相談し、利用者様やケアマネジャー、民生委員などと協力することで課題が解決し安心して生活が継続することが出来たというケースもあります。時間はかかりましたが、連携して対応出来て本当に良かったと思っています。

ホームヘルパー



森谷:ヘルパーとしても、たくさんの意見を持ち帰ってもらい、解決につながり良いチームプレイが出来て良かったと感じています。

プライベートとの両立について

ホームヘルパー



道下:家庭の事情でどうしても休まなければいけないということがあったりしますが、その時には利用者さんには迷惑をかけないようにチームみんなで相談しながら、交代で休みをとれるような形をとっています。



島本:家庭では、主婦としての役割があるので、仕事とプライベートを両立しなければいけないですが、職場の仲間がカバーし、助けてくれるので本当に感謝しています。協力してくれているので、休みも取ることができています。

デイサービス



市原:今のデイサービスでは、きちんと休みを取ることが可能となっています。また、在宅介護も行っているのですがそちらとの両立もできており、仕事とプライベートが充実しています。

やりがいや充実感について

ホームヘルパー



篠原:札幌市内では夜間対応等をしている訪問介護事業所はわずかなので、札幌市社会福祉協議会に相談をたくさんいただきます。頼られている事が実感できて嬉しいです、自慢です。

また、ご自宅で看取りをするというご利用者様もあり、支援に携わることができた充実感があります。



道下:身体介護中心の支援ではヘルパー自身体力的にも大変な面があり、サービス提供責任者としては、負担になっていないか心配することもあります。ヘルパー自らがやりがいを感じ、前向きに訪問してくれている方がいて、調整する立場として、とてもうれしさを感じます。



坂田: 9月6日の地震の際には、普段のチーム連携が大いに役立ち、乗り越えられたという部分もあり、大変ななかでも頑張ったのかなという思いもあります。

デイサービス



坂崎: 『今日は、楽しかった。また、迎えに来てね』と利用者さんから笑顔で声を掛けて頂いた時等は、明日も頑張ろうという意欲が湧きます。

また、デイサービスでしか入浴ができない利用者さんから、入浴された後、とても気持ち良かったという声を直接いただくと介護職員としてとても励みになります。



市原: 利用者様より『あなたがいてくれてよかった』という言葉頂くことがあり、とても励みになっています。

大変な点、苦労している点について

ホームヘルパー



坂田: ヘルパーの人材不足が大変だと思います。ヘルパーになりたい人も、ヘルパー職も少なくなっています。



内山: 新規利用の話も頂いても、人材不足により受けられないこともあり、とても残念な思いをしています。

そんな中で、今いる人達を大事にしなければいけないということをセンター全員の思いとなっており、みんなで声をかけあって、愚痴や不満なども言いやすいような雰囲気づくりを常に心がけています。また、日々活動しているヘルパーが一番頑張っているの、その姿に感謝し、モチベーションをあげられるように声掛けをしています。



竹花: 人材不足が慢性化しているので、定年制の延長や再雇用制度の充実等の対策が必要と思います。



福迫会長: 人材不足は日本全体的な課題であり、最大の課題だと思います。介護職は日本の将来に求められている重要な職だと思いますし、皆さんのお話のようにやりがいのある貴重な仕事だと思います。

長生園



高橋:夜勤時には警備員と2名体制で対応していますが、夜中に体調が悪くなって救急車を要請するようなときもあります。救急車を呼ぶ判断や対応の難しさもあり、入園者さんが不安にならないように落ち着いて対応しなければならないという部分が大変です。

自分一人で判断をしなければならないということがとても不安だったのですが、現在は札幌市に「救急安心センターさっぽろ」という24時間365日の窓口があるので、相談するなど活用しながら業務を行っています。

デイサービス



市原:介護の状況が様々であり、体力的に負担のかかる介護が出てきているので、男性職員が人材として必要と感じています。

今後について

ホームヘルパー



島本:ワークライフバランスをとり、仕事とプライベートの充実を目指していきたいです。



高橋:専門職としての意識の強化や、円滑なチーム運営を心がけ、さらに人材育成の時間を確保していきたいと思います。

デイサービス



坂崎:老人福祉センターで活動しているオカリナサークル・フラダンスといった様々なサークルに声掛けをして、日頃の自分たちの成果をデイサービスにて披露してもらう取り組みを行い、利用者さんが大変喜んでいました。また、児童会館とも連携し、獅子舞をデイサービスにも呼んだところ「一生の思い出だ」と最高の笑顔を見せてくれて、本当に喜んでくれており、介護職員として本当に良かったと職員間で話をしていました。今後もそのような工夫をもっと取り入れていきたいと思っています。

自慢できること

『職員間の団結力がすごい！！』



長生園：高橋淑枝

『大変笑顔の多い職場なので、
自慢は笑顔』



豊平老人デイサービスセンター
坂崎智子

『笑顔と思いやりのある職場』



屯田西
老人デイサービスセンター
市原英樹

『夜間対応型訪問介護事業所として、数
少ない中頑張っています』



中央ヘルパーセンター
篠原 春江

『職員間の明るさと優しさ、
思いやりです』



中央ヘルパーセンター
島本 かなみ

『みんなで協力し合って
連携して力を発揮できること』



北ヘルパーセンター
坂田 麻里子

『職員が優しく暖かいので、すごく
連携がとりやすくて仕事がしやすい！』



東ヘルパーセンター
高橋 由起恵

『経験のある職員が多いので、どんな質
問にも答えてくれて、何も心配なくすこ
く安心して働くことができる』



北ヘルパーセンター
竹花 雅美

『笑顔、コミュニケーションです！！』



白石厚別清田
ヘルパーセンター
伊藤 昌子

『学校を卒業して仕事をして、ここで結
婚をして、ここで出産をして、一生働け
る』



豊平ヘルパーセンター
森谷 亮子

『研修がとても充実しているので、みんな
で同じ方向を向いて仕事できる』



豊平ヘルパーセンター
今野 佳子

『自慢は「人」』



南ヘルパーセンター
横田 芝緒里

『自分たちが守られているという感覚
があり、働き甲斐があることが自慢で
す』



西ヘルパーセンター
道下 誠子

『利用者本位の質の高いサービスを提供
できていると思うことと、それを維持
するための研修が充実していることが
自慢です』



手稲ヘルパーセンター
内山 留美

～ 語る会を終えて～

皆さんにお話をいただきまして、いかに真剣にお仕事に取り組んでいるのかということを知ることができました。難しい問題もありますが、介護職という職業は本当に誇りを持てる仕事だと思います。私自身も誇りをもって皆さんと一緒に進んでいきたいと思いました。今日は本当にありがとうございました。(福迫会長)



私たちの仕事は本当に大変な中でも、職員一人一人が、「これができてよかった」など前向きな気持ちをもって仕事に取り組んでいる職員が数百人もいる組織である札幌市社会福祉協議会ってすごいなと、そこが自慢できると思って仕事をさせていただいています。(佐藤)

デイサービスやヘルパーセンターでの業務内容やそれぞれの悩み、大変さなどを聞く事ができ、とても勉強になりました。

会長をはじめ多くの方々に悩みや大変さなどを聞いて頂ける場を設けて頂けると思っていなかったなので、とても感謝しています。今回、参加をさせていただいた事で連携がいかに大事かを改めて再確認する事ができました。(高橋)

他の部門の方々は、職場の雰囲気やチームワークがとても良く、働きやすい環境であると話され、また同僚や上司との関係性も良く、それが働くうえで一番大切あり、仕事の継続につながると思いました。(坂崎)



何処の部門も人材不足の中、さまざまな努力や工夫をしながら業務に励んでいると感じさせられました。また、福迫会長は私が話した事柄に対し、自分の経験や特技などを交えながら応えていただき、大変参考になりました。(市原)

私たちの行っている介護の大変さがストレートにわかってもらえた気がします。意見交換では、あらかじめ話の内容を整理したつもりでしたが、理解していただけたと感じています。(篠原)

会長とお話する機会はそうそうないことなので、とても貴重な体験をさせていただけたと感じています。それぞれのセンターや施設での現状がわかり、どのセンターでも人員不足やヘルパーの高齢化等の課題が見え、会長から直接お言葉をいただくことができ、本当に良い会だったと思います。(島本)

色々な課題や検討事項はありますが、いい職場環境、いい会社であるということを再認識できた内容だったと思います。このような会は初めての経験でしたが、会長とお話することができて、良かったと思います。(坂田)

このような会に参加させていただき、社協の組織の大きさを実感しました。身が引き締まる思いです。施設福祉部のデイサービスや長生園のお話を聞いて新鮮でした。皆が日々の業務に懸命なことがとても伝わってきました。あらためて社協の職員としての自覚を持ち、札幌市社協の魅力を内部と外部に伝えていきたいと思えます。(高橋)

他部門の普段聞くことができない興味深いお話を聞くことができ、勉強になりました。それぞれにツラさや苦勞もありますが、職員間で話し合い、検討・工夫しながら乗り越え、やりがいにつながっていきけることが素晴らしいと感じました。(伊藤)

様々な福祉部門が集まる社協。大きい組織だとあらためて感じました。福迫会長がヘルパー2級の研修を受けていると聞き、介護職の大変さを解っていただけたように思い、とても身近な存在に感じました。(森谷)

福迫会長にお会いするのは初めてで緊張しましたが、このような機会は滅多にないため、とても良い経験となりました。今後もこのような会議を継続されるのであれば、いろいろな方が参加されれば良いと思いました。(今野)

福迫会長と初めてお会いしました。会長の人となりに少しでも触れることができ良かったと思えました。(横田)



福迫会長が実際にヘルパーの研修を受け、入浴介助や食事介助をされた経験を聞いて、組織のトップがこの道のことを分かってくれる人だととても嬉しく感じました。

また、施設やデイサービスの方の話は普段聞く機会がないので、大変さなども聞いて驚きました。
(道下)

今回参加させていただき、とても良い機会を頂けたと嬉しく思います。そう思った理由は2つあります。一つは、福迫会長のお話を直接お聞きすることが出来、会長の気さくさ、介護事業に対する熱い思いを強く感じる事が出来たからです。

もう一つは、今回のような会がなければ福迫会長の人柄を知ることが出来なかったのと同じように、私たち社協の魅力も、外部にきちんと発信していかないと伝わらないのだという事に気づくことが出来たからです。参加者全員からたくさんの意見が出たように、社協にはたくさんの自慢できることがあります。どうすれば地域に伝わるかを考え、積極的に発信していくことが大切だと思いました。
(内山)



(参加メンバー)

会長:福迫 尚一郎
長生園:高橋淑枝(支援員)
豊平老人デイサービスセンター:坂崎智子
屯田西老人デイサービスセンター:市原英樹
中央ヘルパーセンター:篠原 春江/島本 かなみ
北ヘルパーセンター:坂田 麻里子/竹花 雅美
東ヘルパーセンター:高橋 由起恵
白厚清ヘルパーセンター:伊藤 昌子
豊平ヘルパーセンター:森谷 亮子/今野 佳子
南ヘルパーセンター:横田 芝緒里
西ヘルパーセンター:道下 誠子
手稲ヘルパーセンター:内山 留美
アドバイザー:(株)桐光クリエイティブ 吉田 聡子
アドバイザー:西区社会福祉協議会 白岩 英樹
ファシリテーター:介護事業課長 佐藤 理良
全体進行:経営財務係長 高階 和行

編集：広報戦略会議 組織強化チーム
本報告については HP にも掲載しています。

<http://www.sapporo-shakyo.or.jp/>